

2023年8月実績概要（メモ）

（2023. 9. 29）

定修規模の差から、前月に対しては多くの品目で増産が見られるも、未だ生産調整の局面が続く。

1. 生産動向

イ) エチレン 467, 800トン

前月比 +13.9% (+57, 200トン)
 前年同月比 ▲5.3% (▲26, 100トン)

生産増減に係る諸要因	＜前月比＞	＜前年同月比＞
日数増減	—	—
定修要因等	+ 9.0 %	+ 1.5 %
能力増減	—	+ 0.3 %
稼働率変動	+ 4.9 %	▲ 7.1 %
生産増減率	+13.9 %	▲ 5.3 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月76.4%* → 当月79.8% ← 前年同月85.8%

定修プラント：前月なし → 当月なし ← 前年同月2社2プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、定修規模差を主因として、HDPE、PP、SM、塩ビモノマー、EO、EG、AN、SBR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの14品目がプラスとなった。LDPE、MMAモノマー、BRの3品目はマイナスとなった。

前年比は、稼働率要因等から、LDPE、PP、PS、MMAモノマー、EO、EG、SBR、BR、トルエンなどの12品目がマイナス。SM、キシレンなどの5品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、LDPEは定修規模差と稼働率要因からマイナスとなった。HDPE、PP、PSは生産調整が続く中、定修規模の減少から、当月はプラスとなった。

前年比は、主に稼働率要因からLDPE、HDPE、PP、PSともにマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

消費マインドとしては持ち直しの動きが続いているが、消費者物価指数の上昇が続いており、家計消費への圧迫が続く。国内の生産活動は前月の7月の鉱工業生産指数が前期比マイナス転じたほか、マインド面でも改善が見られつつもマイナストレンドが続いている。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、夏季休暇に伴うユーザー側の稼働日数減もあり、LDPE、HDPE、PP、PSともに二桁台のマイナスとなった。

前年比では、昨年の9月以降4樹脂揃って、前年割れの出荷が続いてきたが、漸くここきて、PPはプラスとなった。他の3樹脂は、前年を下回り、近年では低調な出荷状況にある。

分野別の出荷動向では、フィルム等の包材関係は、4樹脂ともに前年を下回っているが、LDPEの電線被覆分野や、HDPEの中空成形分野では前年を上回る出荷となった。また、PPでは射出成形分野が前年に対し5カ月連続して増加が続いている。PSは電機・工業、包装分野ではマイナスがやや大きいものの、FS分野は微減に留まっている。

ハ) 輸出

OPEC プラスの協調減産等による原油相場の急伸が続く中、汎用樹脂の引き合いは鈍く、前月比では、HDPE、PPで増加が見られるも、LDPE、PSはマイナスとなった。前年比は、LDPE、HDPEは前年が落ち込んだことから、当年はプラスとなったが、PP、PSはマイナスが続いている。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、HDPE、PP、PSで増加した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、HDPE、PPは低下、PSは前月並みとなった。在庫水準としては、LDPE、HDPEは高め、PP、PSは適正水準に近づきつつある。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		7月末	8月末
LDPE	+16,900	3.8	3.5
HDPE	+11,600	4.1	3.8
P P	+15,800	3.3	3.0
P S	+4,500	1.8	1.8

前月からの修正を*で付記
 以上